

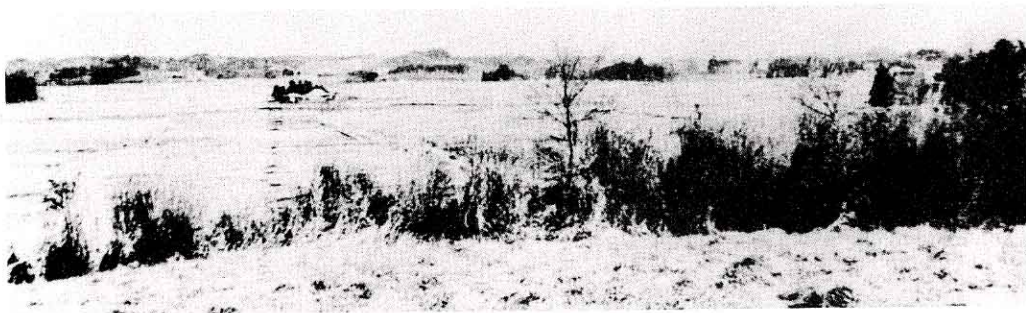
## 9. きょう土を開く

### 1 土地を開いた人びと

#### 矢吹が原

むかし、矢吹が原は、<sup>ゆきかたの</sup>行方野とよばれ、あれた林と草原のつづく作物のとれない<sup>げんや</sup>原野でした。

<sup>ゆきかたの</sup>行方野 (矢吹が原) のおもかげ



作物のとれない<sup>げんや</sup>原野だったこともあって、江戸時代まで会津藩<sup>はん</sup>や白河藩<sup>はん</sup>・幕府領<sup>ばくふりょう</sup>や越後高田領<sup>えちごりょう</sup>と支配のうつりかわりのあったところでした。

#### <sup>しぞく</sup>士族開こん

明治のころになって、人びとはこの広い矢吹が原の開こんに目をむけ、ため池を作ったり、<sup>げんや</sup>原野を切り開いて作物をつくる努力をしました。武士の世が終わり、仕事のなくなった武士をすくうために行われたのが<sup>しぞく</sup>士族開こんです。



<sup>しぞく</sup>士族開こんの民家 (明治12年ころ)